

阿蘇広域行政事務組合公告第25号

令和5年12月5日

令和5年10月組合議会定例会の一般質問について次のとおり公表します。

順番	議員氏名	質問事項	要旨
1	甲斐純一郎 (阿蘇市)	1. 阿蘇広域消防組織に関する件	① 消防本部をはじめ各消防分署・分駐所の現有消防施設（庁舎）状況について  ② 火災発生及び事故種別における救助活動状況について  ③ 消防署職員定数の不足の現状について

## 質問、答弁の内容

### 1. 阿蘇広域消防組織に関する件

#### ○議員

4 番議員、甲斐純一郎でございます。発言通告に基づきまして、質問をさせていただきます。

先月、9月25日でありますけれども、本組合議員1年生を中心とした組合各施設15か所、視察を井野事務局長、そして消防本部から山部総務課長引率の下、1日をかけ、走行距離200キロに近い距離を走り、非常に内容の濃い視察をさせていただきました。どの施設も建築後、相当な年数がたっておりますが、施設延命にそれぞれの職員の方々が一生懸命に維持管理に頑張っていることを確認したところでございます。いずれの施設もそれぞれの市町村民の方々が親しみと安心の思いを持って、重要な施設と位置づけられているなど実感したところでございます。

今回の一般質問は、すべての組織を上げてしまうには時間が足りませんので、阿蘇広域消防組織に関する件を自主的判断で手短かに質問と要望をさせていただきたいと考えております。

まず、消防本部をはじめ、各消防分署・分駐所の現有消防施設（庁舎）の状況について、お尋ねします。まずは、消防本部における高機能消防指令センター、消防救急デジタル無線システムの導入を拝見させていただきました。聞くところによりますと、平成26年にスタートし、平成28年に完了しております。発生する災害も多種多様化・複雑化しており、消防の責務は一層増大しているのではないかなと思うところでございます。住民の安心と安全を確保する消防防災体制の強化は本当にすばらしい対応と敬意を表したいと考えているところでございます。しかし、先ほども申しましたとおり、分署・分駐所のそれぞれの庁舎におきましては、建築後、相当の年数がたっております。先ほど申しましたとおり、関係市町村並びに職員が施設の維持管理にしっかりと対応されておりますけれども、外観では耐用年数が過ぎているのは見えません。しかし、いまや御存じのとおり、どこかで地震が絶えず多発いたしております。そして、地震といえば、南海トラフが当然頭をよぎります。本広域におきましても何年後かの計画とシュミレーションされているかと思っておりますけれども、それぞれ消防署、分署、分駐所、合わせて5か所あります。財政が非常に厳しい折とは思いますが、早めの対応として基金を備蓄するとか、そういったことが必要であるのではないかなと考えておるところでございます。

2つ目になります。火災発生及び事故種別における救助活動状況について、お尋ねします。火災発生内容及び事故種別救助活動内容が最近特に複雑になっているのではないかと思います。また、ここ3年、コロナウイルス感染症による救急搬送については、職員の皆様には大変な気苦労があったのではないかなと思います。また、高齢化社会現象も当然影響しているかなと思います。そういったところにつきまして、第2点お尋ねをしたいと思っております。

それから、最後に3項目めになりますけれども、職員の定数の現状について、お尋ねをしたいと思っております。先の研修会では定数が不足している

とお聞きしました。職員採用は実施されていますけれども、定員不足では安全・安心な組織運営ができないのではないかなというふうに考えております。また、当然のことかもしれませんが、新規採用が決定しても、当然即戦力になるわけじゃありません。消防学校に行って、基礎勉強、訓練もしなければならぬということで、本当に即戦力にはならないから、やはりある程度の定数はしっかり確保する必要があるのではないかなというふうに考えております。

通告におきましては、この3項目を上げております。それぞれに御答弁方をお願いしたいと思います。

#### ●執行部（管理者）

それでは、まず冒頭で私のほうから答弁をさせていただきます。

現在の阿蘇広域消防に関する組織に関することでもありますけれども、その中で消防本部については平成26年に竣工しております。ほかの施設4か所については、昭和55年度に建設されたもので、築後、何と43年が経過をしており、経年劣化に伴う老朽化が進んでいる状況でもあります。

また、職員数につきましては、一度きちんとした改善もやりますし、それに応じながら、今、定員不足について補うため、今年度も採用試験を実施しているような状況でもあります。とにかく最近ではなかなか人手不足と、そしてそういう希望者の方もおいででないというような現状の中です。このことはしっかりとこれからも努めて、採用を確保していきたいということを思っております。

また、火災等の出場件数については、これは今から答弁をさせていただきますけれども、消防本部より詳しく説明をさせていただきますので、よろしくお申し上げまして、事務方のほうにチェンジをしたいと思います。よろしくお願ひします。失礼しました。

#### ●執行部（消防本部次長）

消防本部次長をしております渡邊でございます。御質問1、消防本部の施設等に関しましての御説明をさせていただきます。

消防本部中部消防署は、平成26年12月に竣工し、実動を開始いたしております。車庫シャッターの開閉障害、訓練棟の雨漏りの報告があり、改修工事を実施しております。また、建設から9年経過しており、庁舎の保全計画を作成し、経過的な対応を行うよう計画いたしております。

北部分署、南部分署、産山波野分駐所、野尻草部分駐所は、昭和55年に建築され、現在、築43年となります。平成20年から令和元年にかけて、仮眠室、トイレ、浴室の改修工事を行っております。平成28年度事業で庁舎保全計画調査を実施した結果で早急な改修改善箇所はないものの、各設備等の対応年数を過ぎているため、改修計画が必要という報告がっております。平成31年事業で庁舎耐震診断を実施した結果で庁舎の耐震基準は満たしているとの報告、また令和2年度において施設劣化調査を行い、庁舎の現状の実態把握を行っているところでございます。既存庁舎の増築及び改修または新築の選択肢に事業費もかなり高額なものとなりますので、構成市町村からの急激な負担金増加を抑制するために財政調整基金を有効に活用することも必要であると考えております。今後、執行部及び構成市町村の担当課長方と御協議、組合議会へお諮りしながら慎重に進めてまいりたいと思っております。

以上です。

●執行部（消防本部総務課長）

消防本部総務課長の山部でございます。御質問の火災発生及び事故種別における救助活動状況について御説明をいたします。

お手元にあります一般質問資料を御覧ください。平成30年から令和4年までの過去5年分の災害出場状況を記載しております。①が火災の発生件数でして、火災の種別ごとの発生件数を、左側に件数、右側に棒グラフにて表示して、まとめてみました。5年間で年平均53.4件の火災が発生しておりまして、右側の赤色の棒グラフが建物火災、緑色の棒グラフが林野火災、黄色の棒グラフがその他火災になりまして、この3種別でほぼ大部分の火災件数を占めております。その他の火災は、田んぼや畑などのあぜ道やごみ焼却からの付近に延焼した火災、また野焼き火入れ等からの枯れ草の火災がそれに当たります。阿蘇地域の火災件数の特徴としましては、やはり火入れの飛火による火災や枯れ草火災が多いことが挙げられます。また、建物火災におきましては、近年建築されました一般木造住宅におきまして、耐火性、耐震性の高い構造によりまして、一部の部屋のみで防御します、いわゆる区画火災、こちらで対応するケースがしばしば発生しているのが近年の新たな火災の特徴であると考えております。

②番目に記載しておりますのが救助出場件数を表示しております。こちらは、火災件数とほぼ変わらない年平均の約53.6件の出場があつておりまして、右側の棒グラフを確認いたしますと、主に人命検索に伴います火災、そして交通事故、その他事故等による出場に大きく大別されます。その他事故に関しましては、山岳救助や救急活動時のマンパワー支援などがこれに当たります。

③に救急出場の件数を表示しております。こちらは、平成30年には3,142件で、毎年増加します出場件数のピークを迎えておりました。しかし、それ以降は、新型コロナウイルス感染症の影響かは不明ですが、3,000件を割り込みまして、減少しておりました。しかしながら、令和4年は、反転しまして、3,254件と大きく出場件数が増加しました。その他の出場に関しましては、病院間を搬送します転院搬送や医師を現場へ搬送する活動などが挙げられております。議員の御質問にもありましたように、新型コロナウイルス感染症につきましては、法令上の感染分類は本年の5月より5類へ移行しましたが、ウイルスの感染力自体は衰えておりませんので、引き続き救急出場の際等は感染防止に重点を置いた活動を行っております。

なお、市町村ごとの出場件数や施設ごとの出場件数等の詳細なデータにつきましては、今年9月末に議員の皆様にお送りしました消防年報を御一読いただければと存じております。

続きまして、御質問、3番目にありました消防職員定数の不足の現状について御説明いたします。一般質問資料の下のほうにございます2、消防本部職員採用状況を御覧ください。

はじめに、中段に記載しております職員定数の経緯についてですが、平成26年の条例定数の改正によりまして108名から121名へ、そちらに記載しております平成29年度には130名へ定数が増員されました。主なこのときの改正理由としましては、高機能消防指令センター及び消防救

急デジタル無線システム導入等に対応するための増員によるものです。したがって、現在の定数 130 名になっております。

平成 29 年度以降の退職者数の経過につきましては、資料の下段のほうに記載のとおりでございます。一番下のほうに退職者の内訳等を記載しておりますが、上から定年退職者、早期退職者、普通退職者の順に表記しております。定年に伴います退職は、令和 3 年度末にて一旦終了したものの、普通退職者が令和 4 年度に 2 名、令和 5 年度に 3 名、それぞれ出ている状況です。定数 130 名に対しまして、10 月 1 日現在で職員 125 名、さらに令和 6 年 3 月 31 日は早期退職 1 名になる予定でして、最終的には 124 名になる予定となっております。このため、10 月 10 日に開催されました正副管理者会議におきまして、本年度採用試験については定数 130 名におきまして 6 名の採用をお願いしたところでございます。

今後の採用試験の日程につきましては、10 月 30 日（月）曜日に 2 次試験及び試験選考会を開催後、11 月初旬には合否結果が発表される予定となります。最終的に何名の採用となるかは未定でございますが、定数に満たない場合は令和 6 年度にまた採用試験を行いまして、万全な警備体制を整えたいと考えております。

以上で、御説明を終わります。

#### ○議員

ありがとうございました。

平成 28 年度事業、平成 31 年度事業庁舎耐震診断結果においては耐震基準を満たしているという報告でありました。しかし、先ほども申しましたとおり、地震が頻発しておりますので、やはり今後、執行部及び構成市町村の担当課長方と十分協議をいただいて、そして組合議会へお諮りしながら慎重に進めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

それから、2 番目、3 番目の火災発生及び事故種別における救助活動状況、それから職員の定数 130 名という現状について説明がありました。詳しくお聞きしましたがけれども、しかし、管内の災害も、先ほども言いますように、多様化していること、また、熊本地震、豪雨大災害等がいろいろ考えられます。それを考えたときに、現在、先ほど言われていた 130 名という定数でも不足しているのではないかなというふうにも思っておりますが、総務課長、その辺、答弁をお願いいたします。

#### ●執行部（消防本部総務課長）

御質問にお答えします。

定数 130 名に対する不足分ということの御質問かと思いますが、近年、災害時等におけます安全な現場活動や、また消防団等をはじめとします関係機関との円滑な連携を目的としまして、指揮隊の運用というのが、全国をはじめ、県内でも各消防本部で導入されております。当消防本部におきましても、現在、当部の課長が隊長兼任という形で、指揮隊という形で運用を行っている場合もございます。また、議員の御質問にもありましたとおり、職員採用を新規にした後にすぐに職員が実働で活動できるわけではなく、消防学校へ入校し、初任科教育という教育課程、またそこ

に対しまして、現役職員を派遣したり、また熊本県の消防学校とは別に熊本県の防災消防航空隊、防災ヘリですが、こちらのほうに職員を何年かおきに輪番で派遣しております。こういった状況を鑑みますと、定数 130 名というのは必要な人員数でありまして、今後も採用目標として補充をしていくところが必要かというふうに思っております。

以上です。

**○議員**

ありがとうございました。

最後に、総括として管理者に今後の消防組織についての御見解をいただければと思います。

**●執行部（管理者）**

今の御意見については、私たちが身につまされる思いはしております。やっぱり財政の問題もありますし、それと同時に消防力の低下というのは、これは絶対避けて通れない問題であると思っております。今までいろいろ言われた問題と、それから私ども事務方のほうからもいろいろ答弁をさせていただきましたけれども、包括的に消防力の低下につながらないように、さらに正副管理者会議の中でもしっかりと議論をしながら、そして進めていきたいと思っております。

以上です。

**○議員**

御答弁、ありがとうございました。

市町村が安全・安心な誇れるまちを継続するためには、今、管理者からもお話がありましており、消防組織の総合力が不可欠であります。今後におきましても、職員の人材確保、人材育成に努めることをしっかりお考えいただき、市町村民の安全・安心な生活に寄与される阿蘇広域消防組織であることを願い、私の一般質問を終わりたいと思います。御静聴、ありがとうございました。